



今回は、12月に開催予定だった「学力向上対策検討委員会」の報告です。新型コロナウイルス感染症予防対策の必要性から、資料・調査票の郵送により委員の皆さんからのご意見をいただきました。抜粋して概要を報告いたします。

1. 第2回学力向上対策検討委員会の報告概要

(1) 回答依頼期間

- 令和2年12月17日～令和3年1月15日

(2) 集約方法：郵送による回答

(3) 資料配布による報告概要

- ① 登米市教育支援センター事業実施報告
- ② GIGAスクール構想に係るICT活用推進
- ③ 教職員の勤務時間外在校時間の推移等
- ④ その他：各研修会のアンケート概要等

2. 提出いただいた回答の概要

(1) 令和2年度事業実施報告について

- ・コロナ禍の中、中止せざるを得ない事業もあったが、教育支援センターや各学校の前向きな取組により、多くの事業が実施されていることは素晴らしい。創意工夫しながら最善を尽くしていることに敬意を表したい。
- ・前身の組織に比べ、学校と委員会の関連性が改善され、市内の教育目標が一致しつつある印象を受ける。個々の学校が個々に取り組みをするよりも、シナジー効果が生まれ、児童生徒へのサービス向上につながっていると考える。

(2) GIGAスクール構想に係るICT活用促進について

- ・歴史ある教育研究所の教育資料がアーカイブ化され、アクセス数も8万を越えたことは素晴らしい。登米市内の教職員が活用することによって、更に教員の資質向上が図られると思う。
- ・コロナ禍の中、実施可能な方法でビデオオンデマンド研修を開催し、一定の成果を上げていることは素晴らしい。研修に対する目的意識を高めるために、視聴後のアンケート調査等は必要である。
- ・パソコンなどの使い方を早くから知る事はいいことだと思う。春に取り組んだ「e-登米」。周知が学校ごとに差があったのかと考える。来年は夏休みに1学期の内容、冬休みに2学期の内容、春にまとめなどと分けてもいいのではと思う。ネット環境はそれぞれなので考えてほしい。

(3) 業務改善の取組と教職員の勤務時間外在校時間の推移について

- ・コロナ禍で、朝の健康チェック、教室環境整備、消毒作業等で、教職員の業務は増加し、在校時間の短縮は難しい状況が現場からはうかがえる。

- ・中学校においては、6月、7月、9月、10月、11月が月45時間を上回っており、部活動指導の影響が大きいと思われる。変形労働時間制を検討している都道府県等もあると聞いているが、繁忙期とそうでない時期でのメリハリのある活動が必要であるように思う。また、学校の実状にもよるが、できれば2人顧問制、部活動指導員の導入など、中学校教員の負担軽減を図ってほしい。

(4) 「登米市学習スタンダード」を活用した授業づくりについて

- ・各校において、授業改善に向けた取組の方向性を示すものとなっている。特に、学力向上研究部研究員による授業づくりの研究によって、具体的な授業づくりの在り方が見えてきている。コロナ禍で実際に参観する機会が少なかったことが惜しまれる。
- ・「登米市学習スタンダード」の実効性の検証方法は、学力調査のみでなく、「授業が分かる」「授業が楽しい」など、情意面での評価が必要であり、学習状況調査等アンケート調査が必要であると思う。

(5) 学力向上研究指定校事業及び各種学力向上研修会について

- ・国語、算数の教科指導の研修はもとより、幼保小連携、特別の教科道徳、特別支援教育、プログラミング教育、Webサイトに関する研修が設けてあり、時宜を得たものとなっている。市町村独自の研修としてはとても充実している。
- ・幼保小連携の研修会が設定してあり、各々の取組を理解することにより、接続カリキュラム、スタートカリキュラムが実効性のあるものになっていくと考える。しかも、保育士及び幼稚園教諭の参加率も高く、登米市子育て支援課との連携がよく図られている。
- ・コロナ禍の中に多くの研修会を実施し、先生が学んだことが児童生徒への指導に活かされていると感じた。

会議資料及び提出いただいた調査票の概要は教育支援センターWebサイト「事業報告」ページでご覧いただけます。